特集

「技を育てる、技を磨く、技を伝える」

特集❶

「これぞKAGOSHIMA」自慢の逸品大発表会
～九州新幹線全線開業3周年記念～

各出展社は、来場されたバイヤーや特産品モニターと積極的に意見交換を行っていた。

平成26年2月27日(木)、鹿児島市山下町にあるかごしま県民交流センターで、～九州新幹線全線開業3周年記念～「これぞKAGOSHIMA！自慢の逸品大発表会」が開催された(主催：鹿児島県、鹿児島商工会議所、鹿児島県商工会議所連合会、当協会)。会場には九州新幹線開業後に開発・改良された県産品等が多数並び、県内外の消費者や流通関係者へ紹介されると共に、活発な情報交換がなされる様子が見られた。

発表会では、食品・工芸品・料理メニュー等の計222品目が紹介された(企業・団体等117社)。本物にこだわる川辺在住の職人が結集した川辺伝承七職会からは、現代の住宅事情にもマッチする仏壇が2種出展。モニターからは、「仏間がなくても、これなら本棚やサイドボードに置ける」「老人ホーム等にも持って行けそう」と注目を集めた。収納・移動が簡単な超小型仏壇を完成させるにあたって職人たちは、最新のモデルハウスの見学に出掛けるなどして改良を重ねた。「先人から引き継いだ伝承技術を後世に残すために、みんなで知恵を絞っています」と伝統工芸士である会長の藏前矢須夫さんは話す。食品コーナーでは、厳選素材を使った商品が支持を得ていた。原料の産地に工場を移転した歴史を持つ白露酒造(株)では、焼酎や梅酒の商品以外に、「前掛けなどの蔵元グッズが欲しい。販売はないのか？」という要望があった。

来場者が投票する「私の一押しコンテスト」も同時に行われ、以下の10点が逸品として入賞に輝いた。

特に「あめんどろスキートポテト・シロップ®」は、「サツマイモ100％の自然の甘さがおいしい」「無添加かつ、ビタミン・ミネラルが豊富でヘルシー」とモニターに大絶賛された。(株)唐芋農場代表の別府大和さんは「薩摩半島で伝えられてきたサツマイモと芋飴づくりを5代目として引き継ぎました。昔ながらの伝統製法を元に、もっとサツマイモの新しい魅力を伝えたいと思い、商品開発に取り組んでいます。”世界で一番からだにやさしい蜜“を目指します」と話し、現在海外での展開に向けて準備中だという。

今回は自社農園で素材づくりから取り組むメーカーに、消費者の関心の高さがうかがえた。商品はお土産にするときかさ張らずに日持ちする真空パックや、すぐにいただける食べきりサイズで値段も抑えたもののポイントが高く、思わず手に取りたくなるようなパッケージを求める声や、印象に残る広告についての意見もあった。出展者からは「”売れるモノづくり“を考えるまたとない機会になった」という声があがった。

「私の一押しコンテスト」入賞商品

- あめんどろスキートポテト・シロップ®／(株)唐芋農場
- 天然きびなご漁師漬け＆きびなご塩干／日笠山水産
- ごほうび黒豚／(有)青木ファーム
- 茶～みりょうセット／お茶の野本園
- 食用つばき油／NPO法人桜島ミュージアム
- 薩摩切子eco KIRI／(株)美の匠　ガラス工房　弟子丸
- 切れてるトビウオ生ハム風くんせい／けい水産
- 薩摩ジェラード　薩摩の誉れ／(株)風月堂
- うすやき花月・花ちりめん／(有)大久保水産
- 勝武士ラーメン 土産用／(株)IMT

特集❷

工芸品の新たな市場展開に向けた取り組み

今、県内の工芸品の産地組合や作家が、生活空間デザイナーや流通関係者などの専門家を交えて、それぞれの技術と素材の特長を活かした新たな商品開発とライフスタイルの提案への取り組みが始まっています。

一つは、国指定伝統的工芸品である本場大島紬と薩摩焼、川辺仏壇の産地組合等が中心になり、テーブルウェア・フェスティバル総合プロデューサーの今田功氏、食空間コーディネーターの塩貝起志子氏、県内山形屋バイヤーの長倉啓子氏をアドバイザーに自治体の協力を得ながら、検討委員会（会長・窪田茂本場大島紬織物協同組合理事長）を設立して商品開発に取組んでいます。

第2回検討会でテーブルセッティングに使用する商品を選定した。

年3回の検討会や現地指導、首都圏等の展示会等を経て、薩摩焼・薩摩切子の皿や酒器、小鉢、箸置、彫金の菓子皿・ピック、大島紬柄の薩摩焼など食空間を彩る器や、壁面には大島紬タペストリー、クッション、薩摩切子の照明など、各組合等がコラボレーションするとことで優雅で格調高い「新たで確かなライフスタイル」を提案し市場展開を図っています。

窪田会長は、「常に市場を見据えて消費者目線の商品開発と価格設定が大切。これを機に出荷額5％アップを目指す。生活文化である伝統工芸品業界が連携・強化することで、世界に通用する新たなものづくりが目標」として活動されています。

もう一つは、県内在住の若手職人が新しいモノづくりを目指して立ち上げた「ＭＩＧＯＴＥプロジェクト」である。鹿児島の方言である「みごて（ＭＩＧＯＴＥ）」を冠に、店舗デザイン、イベントプロデュース、ブランドディレクションなどを手掛ける中原慎一郎氏をアドバイザーに、陶器（薩摩焼・川辺焼）、木製品、竹製品、大島紬などの職人が交流し、商品開発に取組んでいます。

中原アドバイザーが工房を訪問され、直接、商品開発の助言を行った。

「生活に根ざしたモノ。喜びを与える。他分野や技術との協業・関わり。個の創造性を大切に」など方向性を確認しながら、ワークショップや現地指導、展示販売会等を経て、釉薬のバリエーションが楽しめる陶人形、薩摩焼のランプシェードやキャンドルホルダー、仏壇の彫刻技術を活かした木製ブローチ、川辺焼の香立て、彫金の靴べらなど、見て、触れて、使って楽しめるシンプルでモダンな商品が新たに誕生しています。

参加者からは、「異業種との連携は初めてだけど、気づかされることが多い。自分の技を見直す良い機会になった」と、コラボレーションすることの大切さを語っていました。

2月に東京で開催された「てて見本市」に出展。現在、何点か商談中である。